

苗箱数も育苗期間も減らします！

「えみまる」^{こうみったん}高密短^{*}で米作り

概要 Abstract

^{*}「高密度播種短期育苗」の略称
高密短による苗は「密短苗」と表記

- ✓ 苗箱数を中苗対比で5割以上削減、育苗日数を20日前後に短縮できます。
- ✓ 新品種「えみまる」により生育遅延による品質低下リスクを解消できます。
- ✓ 密短苗の目標苗形質と適正な育苗管理方法を明らかにしました。



密短苗



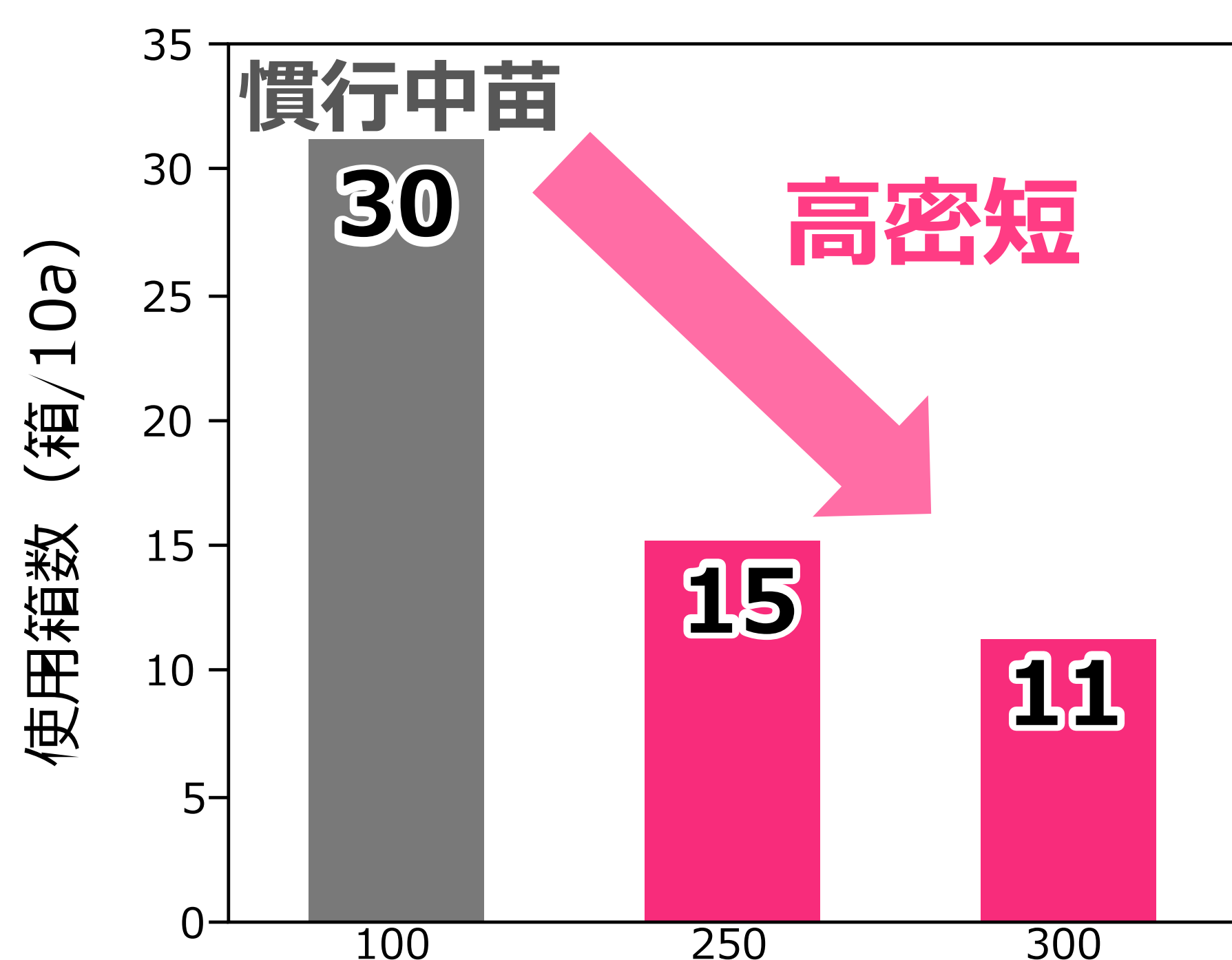
中苗

乾籾播種量 (g/箱) 250～300g
育苗日数 (目安) 20日前後

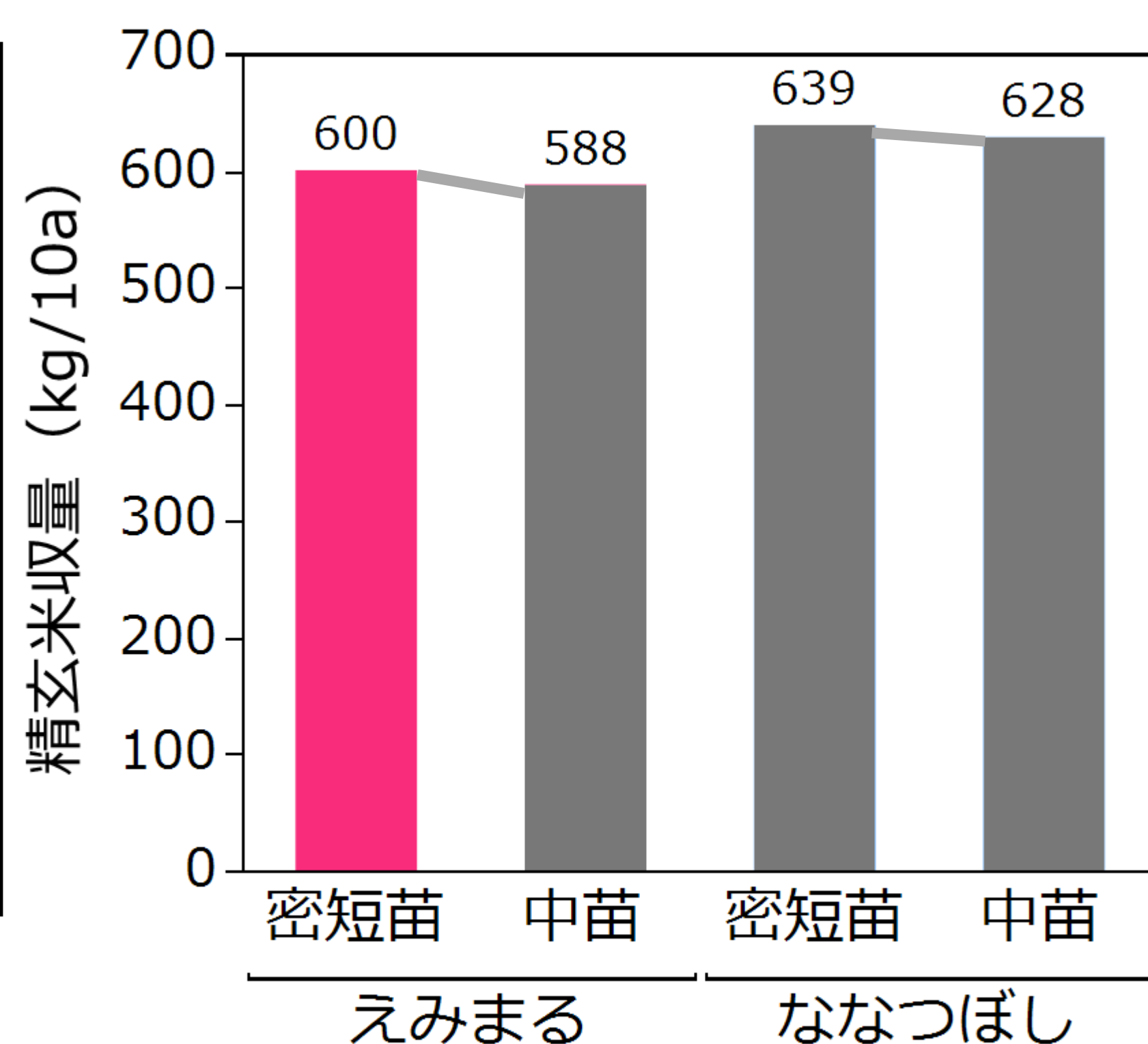
約100g
30～35日

成果 Results

(1) 高密短と慣行中苗の比較



乾籾播種量 (g/箱)
使用箱数は1/2以下



収量・生育量は同等

(本田収量および生育調査は中央農試&上川農試 2019～2021年に実施)



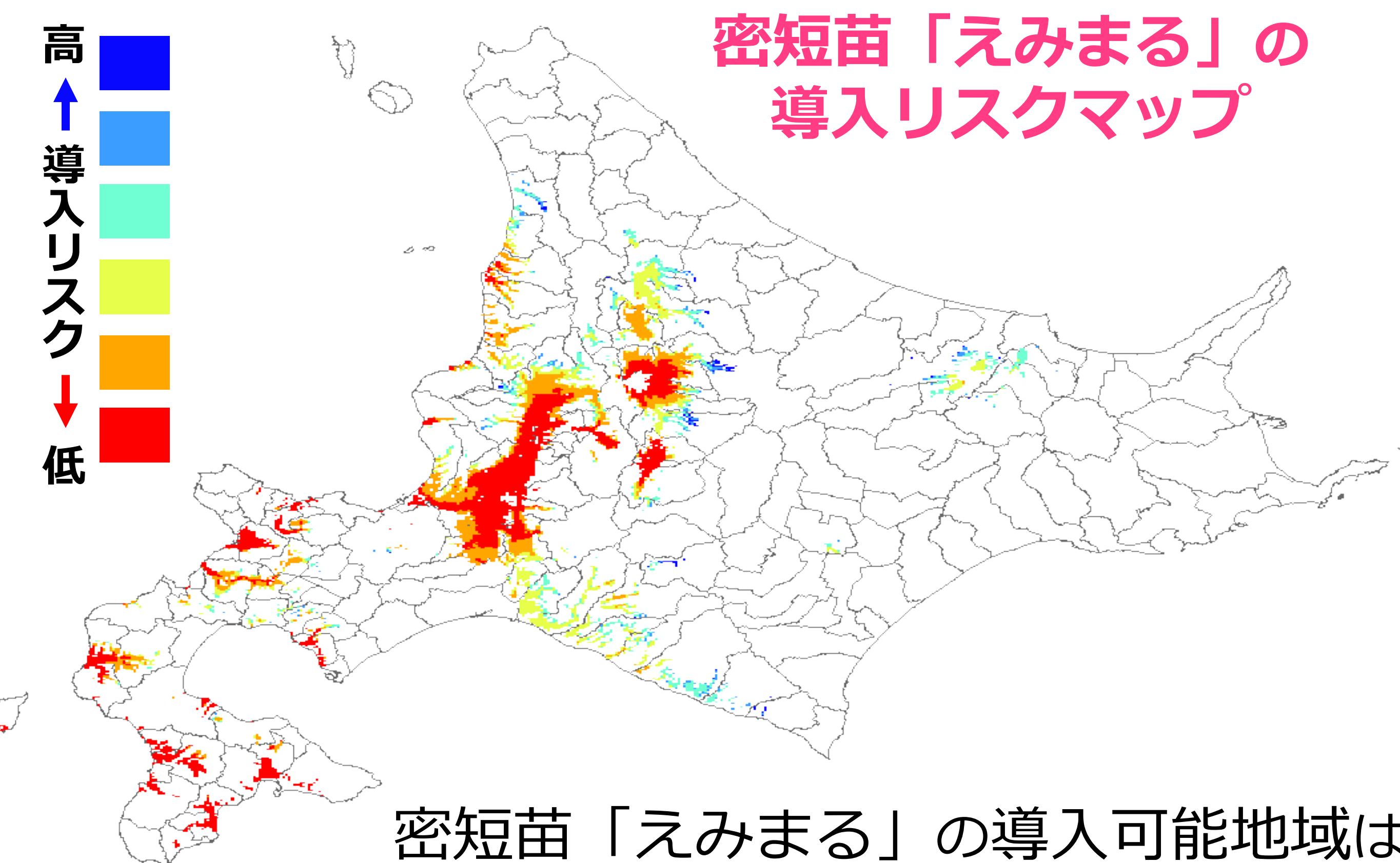
高密短

中苗

出穂期が約5日遅延

(2) 「えみまる」による導入リスク解消

(3) 目標苗形質と適正育苗管理法の策定



密短苗「えみまる」の導入可能地域は
中苗「ななつぼし」と同等

暖色域は推定出穂期が出穂期晩減より早く導入リスクが低い地点を示す
(水稻発育モデルとメッシュ農業気象データによる)

項目		目標値	備考
苗形質	草丈	10～12 (cm)	・密短苗は草丈の過不足による本田初期生育不良が生じやすいため、育苗期間には適切な温度管理および灌水管理に努める。 ・密短苗「えみまる」の移植日は中苗「ななつぼし」を基準とする。 (早期移植では育苗温度不足や移植直後の低温が、晩期移植では本田生育遅延が懸念されるため、適期移植を実施する。)
	葉齢	1.8以上 (枚)	
	地上部乾物重	1.0以上 (g/100本)	
	窒素含有率	3.0以上 (%)	
播種・育苗管理	播種量	乾籾 (g/箱) 250～300 催芽籾 (mL) 500～600	・高密度播種対応の播種機、移植機を使用。 ・播種量増加により本田生育遅延リスクが高まるため、地域の気象や品種を加味して播種量を選択する。
	簡易有効積算温度	180～200℃	
	育苗日数	20日前後(目安)	
	窒素追肥	1 gN/箱	
育苗管理	苗箱覆土		・培土カット量を標準より約3mm増加させる。 ・出芽直後に適宜土落としを実施する。
	灌水管理		
			・1.5葉期以降は毎朝十分な灌水を実施する。

普及 Dissemination

- ① 水稻の育苗や移植作業に係る労働時間、資材量、物材費が削減できます。
- ② 経営面積の規模拡大や、省力化による水稻作付面積維持に活用できます。
- ③ 新品種「えみまる」の生産量や販売数量が増やせます。

連絡先 Contact

中央農業試験場 水田農業部 水田農業グループ
0126-26-1518
central-agri@hro.or.jp